

日韓国交正常化 50 周年記念

# 1960・70 年代 日韓名作映画祭

その時代をご存知ですか？



1965 年 6 月 22 日、日韓基本条約が調印され、日韓両国の国交が正常化しました。そして、本年 2015 年は日韓国交正常化 50 周年を迎える節目の年となります。そこで、国際交流基金と韓国文化院は、日韓にとって記念すべき本年、両国の一層の友好と交流の促進を図るため、この度、日本映画と韓国映画の特集映画祭を共同で開催することとなりました。本映画祭では、両国の国交が正常化した 1960 年代を中心に、両国の社会においてそれぞれに歴史的な動きがあり、映画界においても隆盛から衰退といわれる大きな変化を経験した 1960、70 年代に製作された様々なテーマとジャンルによる両国の名作映画を上映します。映画を通じて、両国の文化交流が更に促進され、あらためて両国の共通点や相違点を発見し、相互理解を深める機会になるものと確信しています。

映画祭の間中には両国の映画関係者をゲストにお迎えし、舞台挨拶、トークショー、対談などの関連イベントも実施する予定です。どうぞご期待下さい！

2015 年

6月13日〔土〕～21日〔日〕

韓国文化院 2階ハンマダンホール

《主催》 駐日韓国大使館 韓国文化院  
独立行政法人 国際交流基金

《後援》 文化庁

《協力》 韓国映像資料院



# 1960・70年代 日韓名作映画祭 日本映画

## 特急につぼん

[1961年/白黒/85分]

- 監督▶川島雄三
- 出演▶フランキー堺、団令子、白川由美ほか



© 1961 Toho Co., Ltd.

《内容》新幹線開通前夜、まだ「特急こだま号」は、東京・大阪間に6時間半を要していた！その6時間半の間に車内で展開する人間模様やどんだんエスカレートする騒動を、列車ならではの細長い空間を生かして描いた、ドタバタ群像喜劇の傑作。獅子文六による原作のタイトルは『7時間半』(1960年)だが、映画の製作時には既に1時間縮まって、所要時間は6時間半になっていたという。

6/13 (土) 上映 16:00 (開場 15:30)

## エレキの若大将

[1965年/カラー/94分]

- 監督▶岩内克己
- 出演▶加山雄三、星由里子、田中邦衛ほか



© 1965 Toho Co., Ltd.

《内容》麻布の老舗すき焼き屋「田能久」の跡取り息子である若大将の、ハインツサエティなキャンパスライフを描く「若大将」シリーズの第6弾。毎作、様々なスポーツに挑戦して、同世代の女性達とときめかせていた若大将こと加山雄三だが、今回は空前のビートルズブームの中、クールなエレキギターを披露！代表的ヒットナンバーである『君といつまでも』も、劇中歌として2回登場する。

6/14 (日) 上映 13:00 (開場 12:30)

## ニッポン無責任時代

[1962年/カラー/86分]

- 監督▶古澤憲吾
- 出演▶植木等、ハナ肇、谷啓ほか



© 1962 Toho Co., Ltd.

《内容》一世を風靡したクレージーキャッツ映画の記念すべき第1作。植木等演じる無職の男、平均(たいら・ひとし)が、洋酒メーカーに潜り込み、口八丁手八丁で大騒動を巻き起こす。高度経済成長を支えていたサラリーマン社会が、痛快なまでに皮肉られている。『無責任一代男』や『ハイ、それまでヨ』といったヒットナンバーのオンパレードも見逃せない。

6/14 (日) 上映 19:00 (開場 18:30)

## 恍惚の人

[1973年/白黒/102分]

- 監督▶豊田四郎
- 出演▶森繁久彌、高峰秀子、田村高廣ほか



© 1973 Toho Co., Ltd.

《内容》21世紀の現在、日本が無視できない問題となっている高齢化社会をいち早く描いた、有吉佐和子の同題の小説の映画化。実年齢より20歳以上もの老け役、かつ認知症を患った老人という難役を演じる森繁久彌。そして、根気良く介護を続ける嫁を演じる、円熟期の高峰秀子。深刻なテーマを扱いつつも、どこことなくユーモラスさが漂う作品。

6/15 (月) 上映 19:00 (開場 18:30)

## 少年

[1969年/カラー/97分/英語字幕]

- 監督▶大島渚
- 出演▶渡辺文雄、小山明子、阿部哲夫、木下剛志ほか



© Oshima Productions

《内容》日本中を旅して回る、父、母、少年、チビの4人家族。この家族の「仕事」は、交通事故を偽装して治療費をゆすり取る、所謂、当たり屋稼業であった。傷痍軍人であることを理由に定職につかない父の指示を受け、自らの小さな体を車の前に投げ出す少年の姿を通じ、高度成長社会の中にもぼつりと残された暗闇が浮かび上がる。1966年に逮捕された実在の家族がモデルとなっている。

6/16 (火) 上映 16:00 (開場 15:30)

## モスラ

[1961年/カラー/106分]

- 監督▶本多猪四郎
- 出演▶フランキー堺、香川京子、小泉博、ザ・ピーナッツほか



© 1961 Toho Co., Ltd.

《内容》ゴジラに続き、特撮怪獣映画として人気を博し続けることになる、「モスラ」映画の第1作。インファント島からさらわれた小美人を取り戻すべく、守護神である巨大怪獣モスラが日本にやってくる…！そしてその謎を追い、東京を守るべく奮闘する、新聞記者と女性カメラマン。高度成長時代の世に、一歩立ち止まったエコロジーの精神が覗く名作。

6/17 (水) 上映 16:00 (開場 15:30)

## 裸の島

[1960年/白黒/95分]

- 監督▶新藤兼人
- 出演▶殿山泰司、乙羽信子ほか



© 1960 Kindai Eiga Kyokai Co., Ltd.

《内容》電気も水道も通わない瀬戸内海の孤島で、自給自足の生活を営む一家を描く。高度経済成長真っ盛りの世に、あえてシンプルで根源的な人間の姿を描いた、示唆的とも言える作品である。前編に渡って林光の美しい音楽が流れ、台詞を一切排除した、実験的な手法でも名高く、諸外国における評価も高い。

6/18 (木) 上映 19:00 (開場 18:30)

\*立花珠樹(共同通信編集委員)トークショー(予定)  
トークショー後、映画を上映します。

## 泥だらけの純情

[1963年/カラー/91分/英語字幕]

- 監督▶中平康
- 出演▶吉永小百合、浜田光夫ほか



© 1963 Nikkatsu Corporation

《内容》ふとしたことから知り合った、やくざ者の次郎と、深窓の令嬢である真美。身分違いの恋は周りの大人達に阻まれ、逃げ出した二人の行く先は…？当時の若者に絶大な人気を誇った、浜田光夫と吉永小百合のゴールデンコンビによる、目活純愛路線映画の金字塔的作品。二人が生きる、同時代ながらも真逆の世界のコントラストも、観る者に衝撃を与える。

6/19 (金) 上映 16:00 (開場 15:30)

## その場所に女ありて

[1962年/カラー/94分]

- 監督▶鈴木英夫
- 出演▶司葉子、宝田明ほか



© 1962 Toho Co., Ltd.

《内容》まだまだ男社会であった広告業界に、しなやかに男性と渉り合う女性営業マン・矢田律子を据えた、異色のハードボイルド作品。新薬の広告のコンペを巡り、ライバル社の敏腕男性営業マンとの間に展開される攻防戦の結果やいかに？そして二人の間に生まれた感情は、果たして恋なのだろうか？煙草をふかして男言葉で話す、当時のキャリアウーマンの描写が興味深い。

6/20 (土) 上映 13:00 (開場 12:30)

## 早乙女家の娘たち

[1962年/白黒/99分]

- 監督▶久松静児
- 出演▶香川京子、白川由美、田村奈巳ほか



© 1962 Toho Co., Ltd.

《内容》東京郊外で暮らす3姉妹とその弟。両親はなく、既に嫁いだ長女に代わり、次女の松子が一家の生計を支えているが、三姉妹の気かりは、悪い仲間と付き合う末弟であった。当時の家族像と結婚を、女性映画の名手である久松監督が丁寧に描いた名作。東宝を代表する清純派女優の香川京子が、家族を想うあまりに婚期を逃しかけている女性役に挑む。

6/21 (日) 上映 16:00 (開場 15:30)

\*香川京子(俳優)・立花珠樹(共同通信編集委員)対談(予定)  
トークショー後、映画を上映します。

# 1960・70年代 日韓名作映画祭 韓国映画

## 糞礼記 (분례기)

[1971年/カラー/102分/日本語字幕]

- 監督 ▶ ユ・ヒョンモク
- 出演 ▶ ユン・ジョンヒ、サ・ミジャ、イ・スンジェほか



《内容》貧しい家の長女・ブンレは、山に芝刈りに行けば強姦され、町に行けば強盗に遭うという薄幸な人生を歩んできた。そんなブンレも結婚をするが、旦那は博打好きの無職。賭博で全財産を失った旦那に家を追い出された彼女は…。紛失していたフィルムが2007年に香港で発見された作品。

\*サ・ミジャ(俳優)舞台挨拶・トークショー(予定)

6/13(土) 上映 13:00 (開場 12:30)

## 憎くてももう一度 (미워도 다시 한번)

[1968年/カラー/87分/日本語字幕]

- 監督 ▶ チョン・ソヨン
- 出演 ▶ シン・ヨンギユン、ムン・ヒ、チョン・ゲヒョンほか



《内容》幼稚園の先生であるヘヨンは、シノが妻帯者とは知らずに彼を愛することになる。ヘヨンはシノとの結婚を夢見るが、シノは真実を話すことができない。その後、ヘヨンはシノのそばから去り、一人でシノとの息子・ヨンシンを産んで育てる。しかし、8年後、彼女は息子の将来のために事業家として成功したシノを訪ねる…。公開当時、空前の大ヒットを記録した韓国映画史上、最も有名なメロドラマの一つ。

\*シン・ヨンギユン(俳優)舞台挨拶・トークショー(予定)

6/13(土) 上映 19:00 (開場 18:30)

## ロマンスババ (로맨스 바빠)

[1960年/白黒/131分/日本語字幕]

- 監督 ▶ シン・サンオク
- 出演 ▶ キム・スンホ、チェ・ウニ、キム・ジンギユほか



《内容》生命保険会社に勤めるキム係長は52歳、家庭では2男3女の父だった。不況のため、キムは突然会社を解雇されてしまうが、子どもたちに心配をかけたくないキムは、毎日背広を着て出かけては公園で時間をつぶす。1960年代を代表する笑いと涙に溢れたホームドラマの傑作。

6/14(日) 上映 16:00 (開場 15:30)

## 春香伝 (춘향전)

[1961年/カラー/110分/日本語字幕]

- 監督 ▶ ホン・ソング
- 出演 ▶ キム・ジミ、シン・ギイシク、キム・ドンウォンほか



《内容》地方長官の息子・モンニョンは、美しい娘・チュニャンと出会い恋に落ちる。二人は結婚を約束するが、長官が交替し、モンニョンは科挙の試験を受けるため離れて暮らすことになる。新任の長官・ピョン・ハクトは絶世の美女のチュニャンを妾にしようとするが断られ、チュニャンを投獄してしまう…。朝鮮時代に書かれた作者不詳の小説『春香伝』を映画化した作品。これまでに幾度となく映画化されている。

6/15(月) 上映 16:00 (開場 15:30)

## 下女 (하녀)

[1960年/白黒/111分/日本語字幕]

- 監督 ▶ キム・ギヨン
- 出演 ▶ キム・ジンギユ、チュ・ジュンニョ、アン・ソングほか



《内容》作曲家の家で雇われている家政婦が、ふとしたことから家主の夫と肉関係を持つ。それ以降、家政婦は夫の愛を独占しようと妻や子供に嫌がらせを始める。弱みを握られた家族は、次第に家政婦の支配下に置かれていく。当時の韓国で実際に起こった事件を題材にしており、1960年代に似つかわしくない独創的な表現に溢れた作品。

6/16(火) 上映 19:00 (開場 18:30)

## 森浦への道 (삼포가는 길)

[1975年/カラー/102分/日本語字幕]

- 監督 ▶ イ・マニ
- 出演 ▶ ベク・イルソプ、キム・ジンギユ、ムン・スクほか



《内容》工事現場で働く若い労働者のノ・ヨンドルは、刑務所生活を終え、工事現場を転々としながら故郷に向かう中年のチョンに出会う。チョンは10余年ぶりに故郷のサンポ(森浦)を訪れようとしていた。二人は旅の途中、町の居酒屋から逃げてきた女・ベッカに会い、三人の珍道中が始まる。それぞれに事情がある三人の男女が厳冬の雪原を旅するロードムービー。名匠・イ・マニ監督の遺作。

6/17(水) 上映 19:00 (開場 18:30)

## 霧 (안개)

[1967年/白黒/80分/日本語字幕]

- 監督 ▶ キム・スヨン
- 出演 ▶ シン・ソニイル、ユン・ジョンヒ、キム・ジョンチュルほか



《内容》ビジネスマンとして成功しながらも倦怠感にとりつかれた男が、母の墓参りと休暇をかねて故郷へ帰る。立ちこめる霧のほかには何も無い寒村で彼はひとりの女性と出会い、衝動的に結ばれてしまう。1960年代の混乱した社会状況下での不条理と倦怠感が描かれた作品。

6/18(木) 上映 16:00 (開場 15:30)

## 星たちの故郷 (별들의 고향)

[1974年/カラー/106分/日本語字幕]

- 監督 ▶ イ・ジャンホ
- 出演 ▶ シン・ソニイル、アン・インスク、ユン・イルボンほか



《内容》初めての愛で男に捨てられたキョンアは、生まれつきの明るい性格と明朗さから悲しみを断ち切って中年のイ・マンジュンの後妻になる。しかし、キョンアは身ごもった過去のために、マンジュンと別れてホステスになる。その後、画家のムノと知り合ったキョンアは、まもなく彼と同居生活を始めるが…。経済発展の一方で矛盾や歪みなどが大きくなる社会の問題を鋭く描いた作品。

6/19(金) 上映 19:00 (開場 18:30)

## 馬鹿たちの行進 (바보들의 행진)

[1975年/カラー/117分/日本語字幕]

- 監督 ▶ ハ・ギルチョン
- 出演 ▶ ユン・ムンソプ、ハ・ジェヨン、イ・ヨンオクほか



《内容》Y大学哲学科に通う学生のビョンテとヨンチョル。二人は合コンで知り合ったヨンジャとスンジャとデートをするが、それぞれの仲はなかなか進展しない。彼らは急激に伝播した西欧文明の影響を受けた世代。キャンパス、家、社会の壁に当面し苦悩しながらも、明るい明日のために成長していく…。1970年代の閉塞した社会状況を若者たちの人間像を通じて描いた名作。

6/20(土) 上映 16:00 (開場 15:30)

## 誤発弾 (오발탄)

[1961年/白黒/105分/日本語字幕]

- 監督 ▶ ユ・ヒョンモク
- 出演 ▶ キム・ジンギユ、チェ・ムリョン、ムン・ジョンスクほか



《内容》韓国戦争後の荒廃したソウルを舞台に、金銭問題や変動する社会の混乱に苦悩する公認会計士の人生を描く。彼は精神を病んだ母、栄養失調の妊娠した妻、トラブルばかり起こす弟など、家族みんなを支えなければならないという重荷を背負いながら生きて行く…。兪監督の代表作であり、韓国映画史上屈指の名作と評価されている。

6/21(日) 上映 13:00 (開場 12:30)

## ■ 観覧お申し込み要領

観覧無料（事前申込制、全席自由席、各回入替）

募集人員：各回 200 名（お申し込みは 1 作品につき、お一人様 2 名様まで）

## 〈韓国文化院ホームページからのお申込み〉

お申込みには韓国文化院ホームページでの会員登録（無料）が必要です。

－韓国文化院ホームページの「イベント応募コーナー」からお申込みいただき、『応募タイトル』欄に観覧をご希望される映画タイトルを必ずご明記ください。（お申込み 1 回につき、1 上映分のお申込みが可能です。2 作品以上の観覧をご希望の方は、作品毎にイベント応募コーナーから別途お申込みください。）

\*ご希望される映画タイトルのご記入のない場合には、お申込みは無効となりますので、くれぐれもご注意ください。

▶申込締切：2015 年 5 月 31 日（日）

▶抽選で当選された方のみ、2015 年 6 月 5 日（金）までに確認書をメールでお送りします。

\*落選された方には別途ご連絡をいたしませんので予めご了承ください。

尚、事前の観覧お申し込みで募集人員に達しない作品がある場合は、イベント当日に会場で観覧のお申込みを受け付けます。（当日受付の実施の有無、詳細などについては後日、韓国文化院ホームページでご案内いたします。）

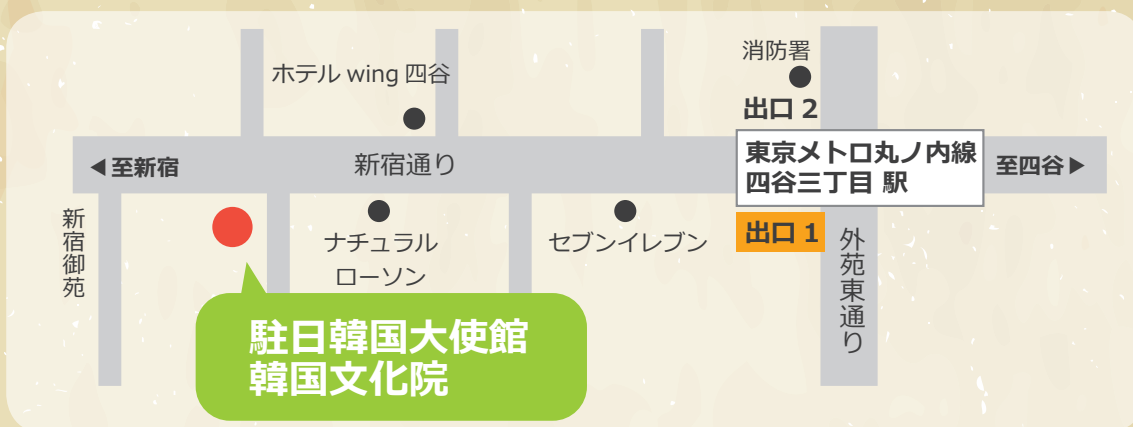
## ■ 上映スケジュール

| 日時     | 6月13日<br>〈土〉       | 6月14日<br>〈日〉        | 6月15日<br>〈月〉   | 6月16日<br>〈火〉 | 6月17日<br>〈水〉    | 6月18日<br>〈木〉  | 6月19日<br>〈金〉      | 6月20日<br>〈土〉        | 6月21日<br>〈日〉       |
|--------|--------------------|---------------------|----------------|--------------|-----------------|---------------|-------------------|---------------------|--------------------|
| 13:00～ | 〔韓国映画〕<br>糞礼記      | 〔日本映画〕<br>エレキの若大将   |                |              |                 |               |                   | 〔日本映画〕<br>その場所に女ありて | 〔韓国映画〕<br>誤発弾      |
| 16:00～ | 〔日本映画〕<br>特急につぼん   | 〔韓国映画〕<br>ロマンスパパ    | 〔韓国映画〕<br>春香伝  | 〔日本映画〕<br>少年 | 〔日本映画〕<br>モスラ   | 〔韓国映画〕<br>霧   | 〔日本映画〕<br>泥だらけの純情 | 〔韓国映画〕<br>馬鹿たちの行進   | 〔日本映画〕<br>早乙女家の娘たち |
| 19:00～ | 〔韓国映画〕<br>憎くてももう一度 | 〔日本映画〕<br>ニッポン無責任時代 | 〔日本映画〕<br>恍惚の人 | 〔韓国映画〕<br>下女 | 〔韓国映画〕<br>森浦への道 | 〔日本映画〕<br>裸の島 | 〔韓国映画〕<br>星たちの故郷  |                     |                    |

## ■ 会場

韓国文化院 2 階ハンマダンホール（東京都新宿区四谷 4-4-10 TEL：03-3357-5970）

\*東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目」駅 1 番出口より徒歩 3 分東口



## ■ お問い合わせ

駐日韓国大使館 韓国文化院

〈TEL〉 03-3357-5970 〈E-mail〉 movie@koreanculture.jp

国際交流基金 映像事業部

〈TEL〉 03-5369-6064 〈HP〉 http://www.jpff.go.jp

〈E-mail〉 media\_and\_communications@jpff.go.jp



駐日韓国大使館 韓国文化院  
www.koreanculture.jp

